

【はじめに】カテーテル検査・治療(以下カテ)は、外科手術に比べ低侵襲で患者の身体への負担が少ないという特徴を持っているが、意識下で行う事で不安や苦痛が増強される事がある。患者により精神面、社会的背景は様々でありカテを受ける思いも多様である。カテーテル室看護師(以下カテ室看護師)は、どのように患者の精神状況を捉えアプローチができるのか症例を通し課題を検討した。【目的】カテーテル治療を受ける患者の精神状況を理解しカテ室看護師に必要な援助を見出す。【方法】治療前後の患者の言動や様子、医療者の関りなどの患者情報をもとにアギユラの危機理論を用いて分析する。【結果】1. 出来事の知覚ステント内再狭窄があり再度 PCI をする必要性を説明される。患者は過去のPCI で右撓骨動脈が損傷した事(記載なく詳細不明)や長時間になった事で次の患者に迷惑をかけたという思いによりPCI は嫌な経験として受け止めている。2. 社会的支持患者は独居でキーパーソンは長兄となっているが、支援体制については情報がない。医療者へは自分の思いを表出できているが家族のサポートは受けられていないようである。3. 対処機制医師の説明から死への恐怖や不安が増強し自宅での行動が制限されていた。PCI 前に安心して自宅での生活を過ごせていなかった。【結論】1. 過去のPCI の経験から不安を抱いている為、安心してPCI を受けられるよう正確な情報を提供する必要がある。2. カテ中に得た情報から患者が必要とする看護を病棟と連携し支援していく事が重要である。